

小松島市の板碑

考古班 (徳島考古学研究グループ)

岡山真知子^{1*} 西本 沙織² 小林 勝美³ 三宅 良明² 福田 宰大⁴

要旨：今回調査した小松島市の板碑は、5箇所6基である。文献等にはあと7基くらいは存在していたと考えられるが、現在は行方不明である。特筆すべきは、近年、小松島市教育委員会が櫛淵の金剛寺跡に建てられていた板碑2基を発見したことである（金剛寺板碑という）。現在、小松島市文化財に指定され、図書館2階の郷土資料展示室に展示されている。

五輪塔線刻板碑と名号板碑^{みょうごう}の2基とも紀年銘はないが、五輪塔線刻板碑には「八月十日」の部分が残されている。小松島市教育委員会の調査では、五輪塔板碑が南北朝期、名号板碑が室町期につくられたとされている。

キーワード：阿波型板碑、五輪塔線刻板碑、名号板碑

1. はじめに

板碑とは、中世に造立された石製の卒塔婆のことで、分布の中心地の一つに阿波国があるという独特の考古遺物である。小松島市の板碑の研究史についてまとめる。

まず、『勝浦郡志』（1923年）に板碑として、「田野恩山寺に阿弥陀三尊種子板碑が2基と中田貝塚の側に不明の板碑が1基ある」との記述がある。今回恩山寺で調査した阿弥陀三尊種子板碑1基はこのうちの小さいほうが該当すると考えられる。

次に、田所市太が編集した『立江町史』（1935年）に板碑として、「櫛淵で3基、立江で2基の阿弥陀三尊種子板碑がある」との記述があるが、現在は行方不明である

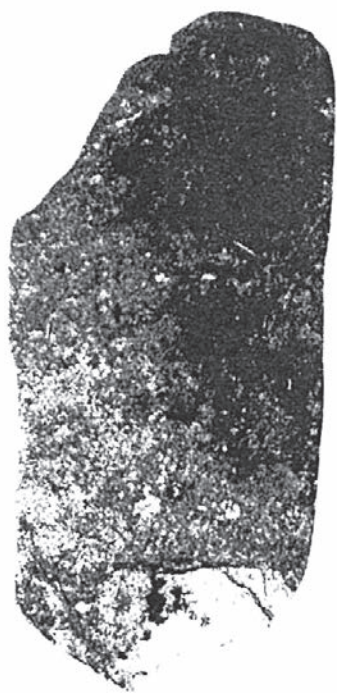
小松島市の郷土史家であった石川豊作さんの『石川豊作趣味の収集』の中に、「小松島の神社で板碑を発見」という昭和42年8月10日の徳島新聞読者の手紙に掲載された記事があり、その中に「細川神社のお堂の下から板碑を見つけました。すぐ掘り出して



図1 『石川豊作趣味の収集』の記事

1 徳島市南末広町 2 徳島市教育委員会社会教育課 3 小松島市江田町 4 徳島市八万南小学校

* 〒770-0865 徳島市南末広町4-31-901 e-mail: okayama.m82@gmail.com



板 碑 （景岩寺境内）
 丈（36cm）幅（15cm）横線（2）
 輪かく（不明） 梵字あり。

図2 『小松島市史 風土記』口絵写真

調べたところ、石材は青石で……」と書かれており、阿波学会郷土班の調査で発見していることがわかる（図1）が、ただ残念なことに阿波学会の報告にはこの板碑のことは書かれていないし、板碑も行方不明である。この記述に基づけば、阿弥陀画像板碑が存在していた可能性がある。

また、『小松島市史 風土記』の口絵に掲載されている景岩寺境内の板碑（図2）も所在不明である。なお、本文には板碑の記述はされていない。

最近、櫛淵の金剛寺跡から2基の板碑が小松島市教育委員会によって発見され、小松島市文化財に指定された。写真撮影や拓本がとられ、『小松島市の文化財』にまとめられている。

2. 小松島市における板碑の調査

今回の調査で確認した5箇所6基の板碑の実測調査・拓本・写真撮影を行った。今回確認できた板碑を表1にまとめ、地図上に示したのが図3である。

1) 金剛寺板碑（図4—1・2）

前述もしたが、櫛淵の金剛寺跡から2基の板碑が

小松島市教育委員会によって発見され、小松島市文化財に指定された。写真撮影や拓本がとられ、『小松島市の文化財』にまとめられている。それで、私たちもこれを使わせていただくか、調査をするかと考えた末、調査をさせていただいた。

金剛寺跡は、佐山の標高58mの山上に位置しており、奈良時代の行基の開基とも言われているが、中世段階には寺院として成立していたと考えられている¹⁾。

2基のうち1基の板碑（図4—1）は、長さ156.6cm、幅37.5cm、厚さ7.0cmの五輪塔線刻板碑である。銘文に「八月十日」とあるが、紀年は不明である。五輪塔線刻の中に五大種子が描かれ、レリーフ状を呈する。これが大きな特徴である。

もう1基の板碑（図4—2）は、名号板碑である。長さ148.5cm、幅35.5cm、厚さ3.7cmを測る。中央部が破損しているが、南無阿弥は読むことができる。また、名号の下には蓮華が描かれている。基部までの高さは、100cmである。

2) 柳ノ内の板碑（図5—3）

阿弥陀三尊種子板碑の頭の部分のみが残っている板碑である。二線・杵線もきっちりと描かれているので、しっかりした板碑であることがわかる。現状で、長さ19.0cm（上半部のみ）、幅18.6cm、厚さ2.4cmを測る。

なお、1)・2)の板碑は図書館2階の郷土資料室に展示されている。

3) 成願寺の板碑（図5—4）

成願寺の墓地内に建てられている阿弥陀三尊種子板碑である。長さ36.6cm、幅10.5cm、厚さ3.7cmを測るやや小型の板碑で、頂部が少し欠けている。二線・杵線をもつ。

4) 恩山寺の板碑（図5—5）

恩山寺の寺と駐車場との間の墓地内に建てられている阿弥陀三尊種子板碑である。長さ57.5cm、幅21.0cm、厚さ3.0cmを測る。成願寺板碑や奥角遺跡出土板碑よりは大きい板碑である。二線・杵線をもつが、中央部が少し欠けている。

5) 奥角遺跡出土の板碑（図5—6）

この板碑は、徳島県埋蔵文化財センターの平成22（2010）年の調査で発見された板碑である。今回は、

徳島県埋蔵文化財センターのご厚意により、調査させていただいた。見た目では分らなかったが、拓本を取るとしっかりと阿弥陀三尊種子が描かれてい

た。長さ47.5cm, 幅17.0cm, 厚さ3.7cmを測り、二線は持っているが、枠線はない。恩山寺板碑よりは一回り小さい板碑である。

表1 小松島市の板碑一覧（長さ・幅・厚さの単位はcm, 番号は図3・4・5に同じ）

No.	名称	所在地	高さ	幅	厚さ	種子	石材
1	金剛寺跡1	小松島市櫛淵町字佐山	156.6	37.5	7.0	五輪塔線刻	緑色片岩
2	金剛寺跡2	小松島市櫛淵町字佐山	148.5	35.5	3.7	名号	緑色片岩
3	柳ノ内	小松島市立江町柳ノ内	19.0+	18.6	2.4	阿弥陀（三尊）種子	緑色片岩
4	成願寺	小松島市中田町奥林6	36.6	10.5	3.7	阿弥陀三尊種子	緑色片岩
5	恩山寺	小松島市田野町字恩山寺谷40	57.5	21.0	3.0	阿弥陀三尊種子	緑色片岩
6	奥角遺跡	小松島市田野町奥角10番1号	47.5	17.0	3.7	阿弥陀三尊種子	緑色片岩

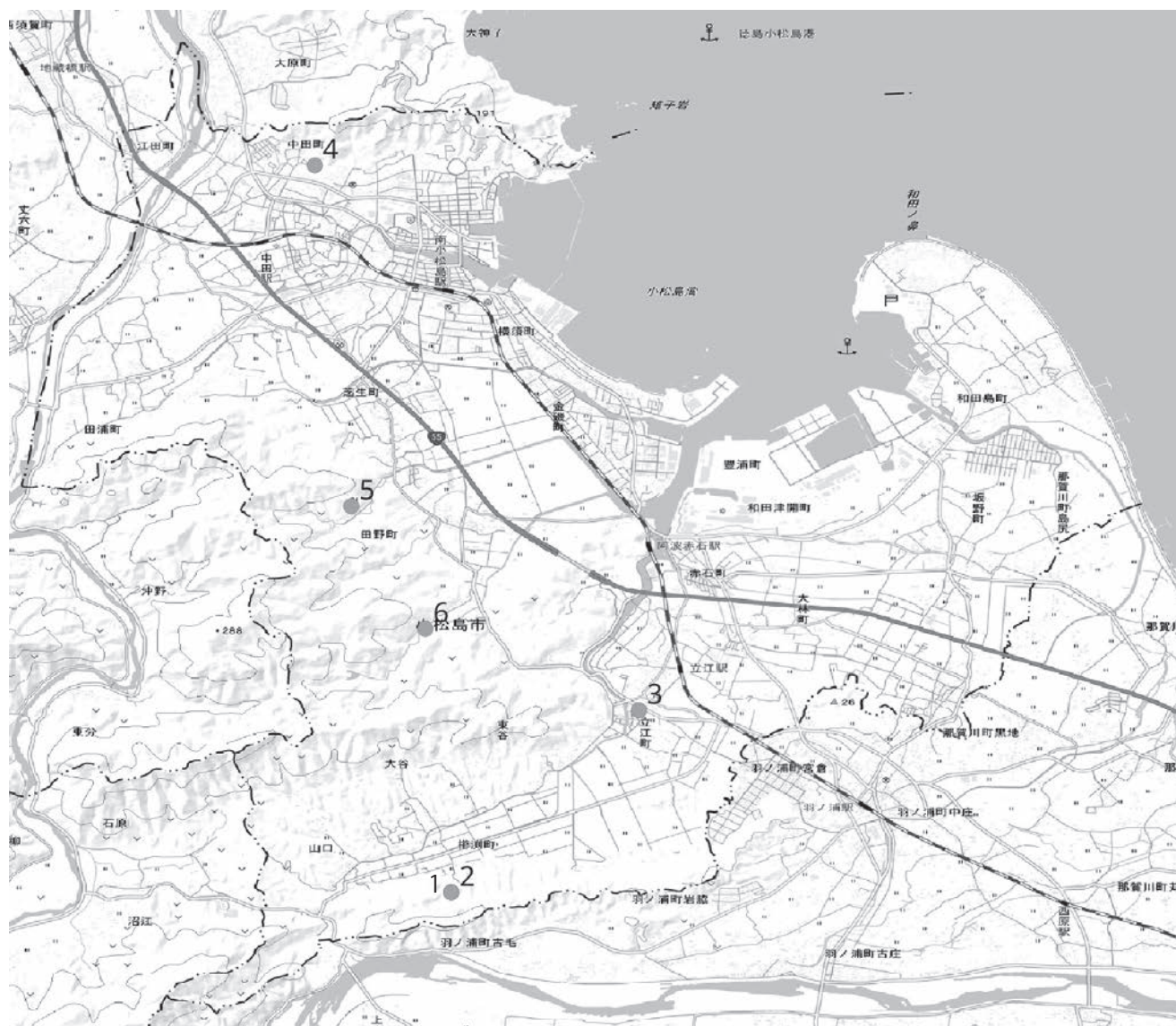


図3 小松島市における板碑の所在（番号は表1に同じ）

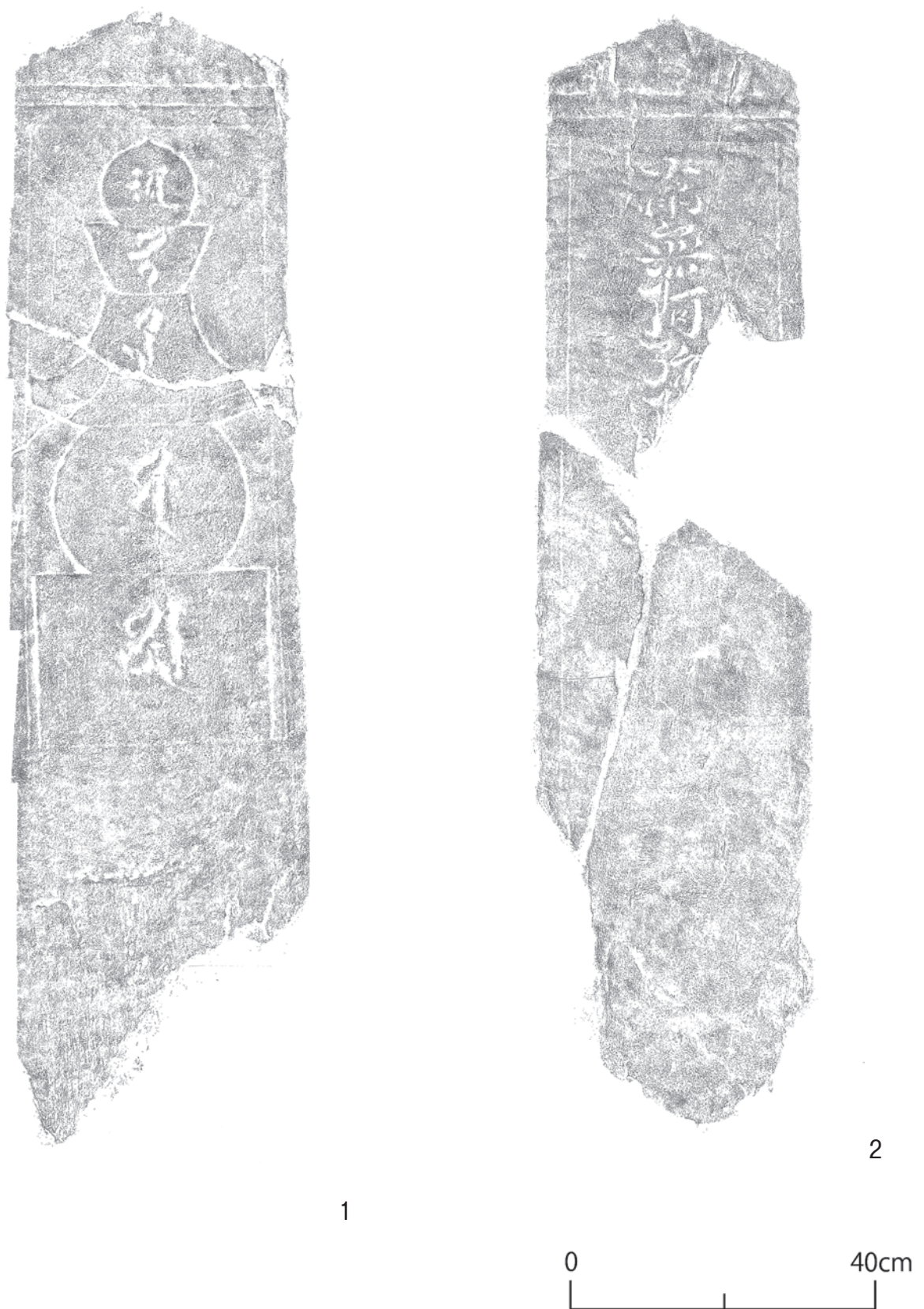


図4 小松島市板碑実測図 No.1(1:8, 番号は表に同じ)

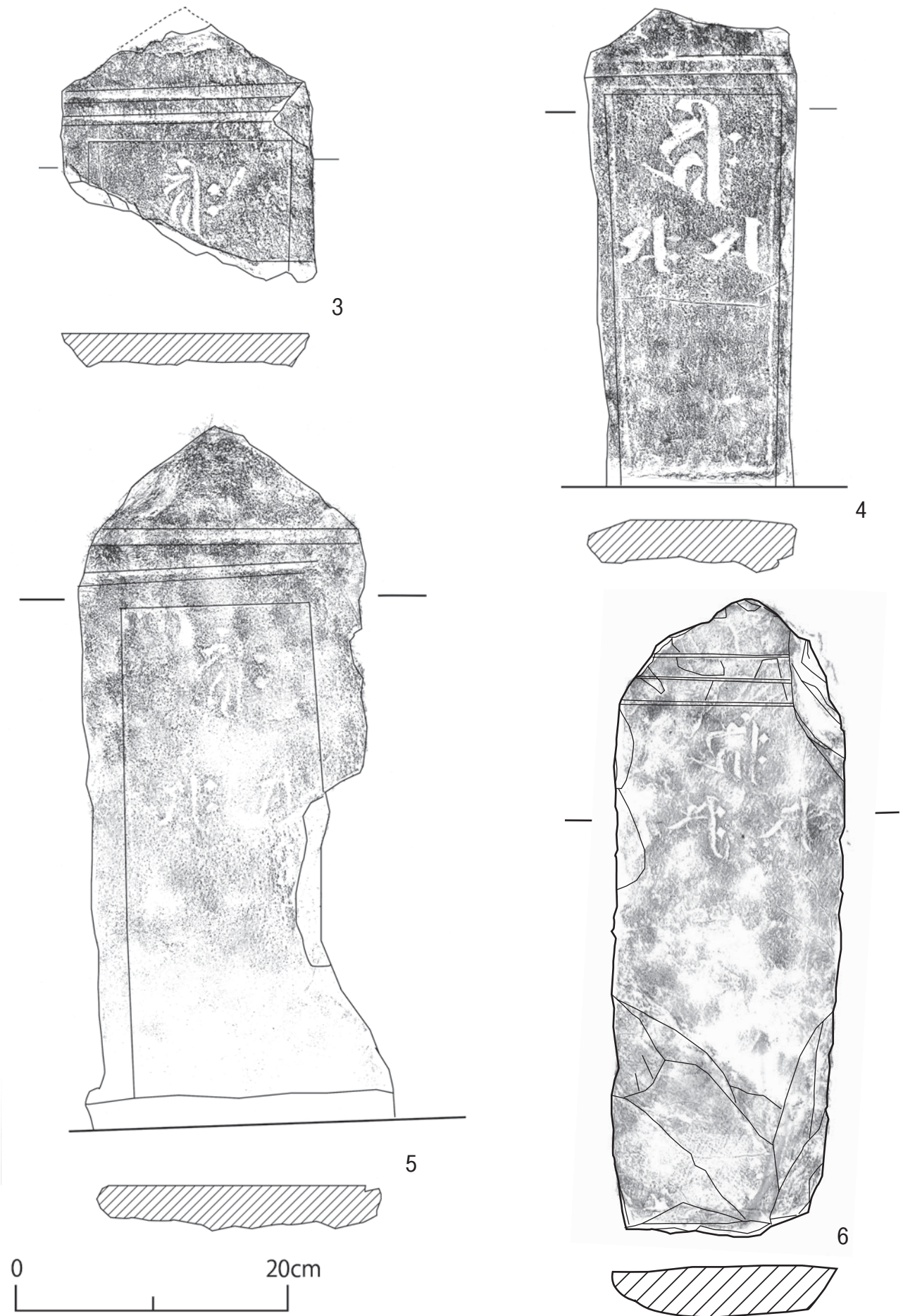


図5 小松島市板碑実測図 No.2 (1 : 4, 番号は表1に同じ)

3. まとめ

1) 板碑の標識

小松島市の板碑を標識別にグラフにしたのが図6である。阿弥陀三尊板碑が4基、名号・五輪塔線刻板碑が各1基である。3分の2が阿弥陀三尊種子板碑であり、これは阿波板碑の一般的な特徴と一致する。

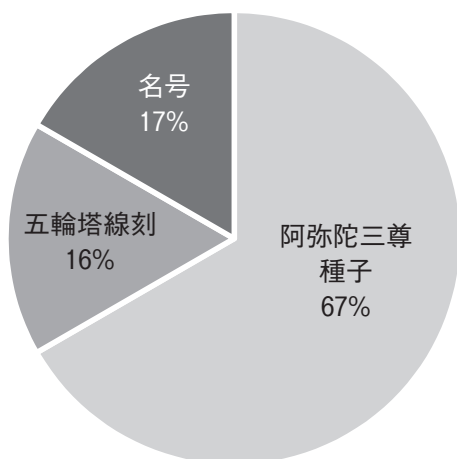


図6 小松島市板碑の標識割合

2) 板碑の造立年代

紀年銘板碑が1基もないので、造立年代を決めるのはむずかしい。小松島市教育委員会の調査では、五輪塔板碑が南北朝期、名号板碑が室町期につくられたとされている。阿波板碑の造立年代の中心もこの時期であり、そのように考えるのが妥当であろう。

3) 板碑の大きさ

小松島市の板碑の大きさの分布を図7に示した。特徴として、大型2基と小型の阿弥陀三尊板碑が4基あり、長さとの比が3:1に近くなっている。幅の狭い傾向が指摘できる。

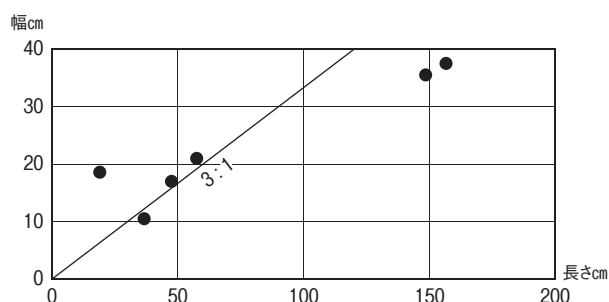


図7 小松島市の板碑の大きさ

4. 考察

小松島市で発見された金剛寺跡の大型板碑2基の種子である名号板碑と五輪塔線刻板碑について考察を加えることにする。

1) 名号板碑

「南無阿弥陀仏」のいわゆる六字名号が刻まれた名号板碑は、阿波の板碑全体の約6%を占め、種子・画像板碑に次いで多いことがこれまでの研究で示されている(考古班1997・考古班2017)。今回の調査で1基の名号板碑を調査した。行書体で名号が描かれている。紀年銘はなく、南北朝期から室町時代と考えられる。

名号板碑で年号のわかるものが21基あり、年代別のグラフを作成した(図8)。正応2(1289)年を初出とし、永正2(1505)年が最後となる。1423～1493年の70年間の紀年銘板碑は見つかっていない。

名号板碑の分布(図9)をみると、徳島市に38基、石井町に53基と吉野川下流域および鮎喰川流域に特に集中しており、阿波における初期段階(鎌倉時代)の板碑や大型の凝灰岩製の五輪塔の分布圏ともほぼ重なっている。これらの分布域は古代の国府推定地にも近いほか、中世の守護佐々木氏や小笠原氏などにゆかりが深い地域でもある。

徳島県内における名号板碑の発生は全国的に見ても古く、石井町高川原加茂野敷地神社の正応2(1289)年の板碑(県指定文化財)が、埼玉県行田市真名板薬師堂の建治元(1275)年の板碑に次いで古い(石村1984)。加茂野の板碑は六字名号を記した札を配り全国を歩いた一遍上人が阿波を遊行し、その後亡くなった正応2年に建立されたものであり、一遍上人との関連を示唆している。次に、建てられた名号板碑が鳴門市の辻見堂の名号板碑である。加茂野の板碑以降、26年経過している。これ以降14世紀には吉野川下流域を中心に多くの名号板碑が建てられるようになるが、15世紀に入ると急激に見られなくなり、1423～1493年の70年間の紀年銘板碑は見つかっていない。

次に、名号板碑の変化を知るために、年代順に主なものを並べたのが図10である。図10を見ると、古い時期のは流麗な行書体であるが、1315年と1394年

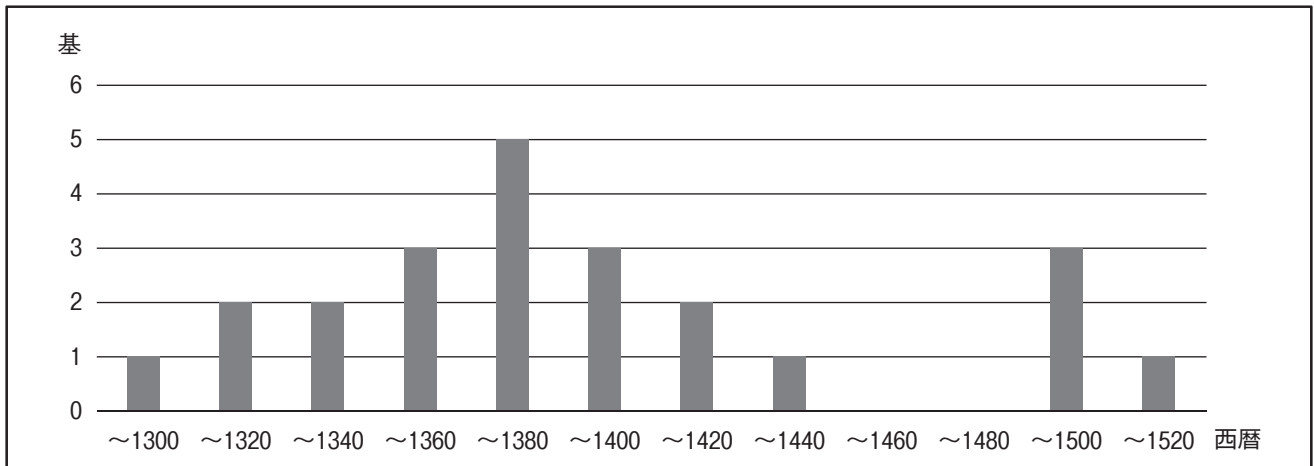


図8 阿波板碑の名号板碑の造立年代

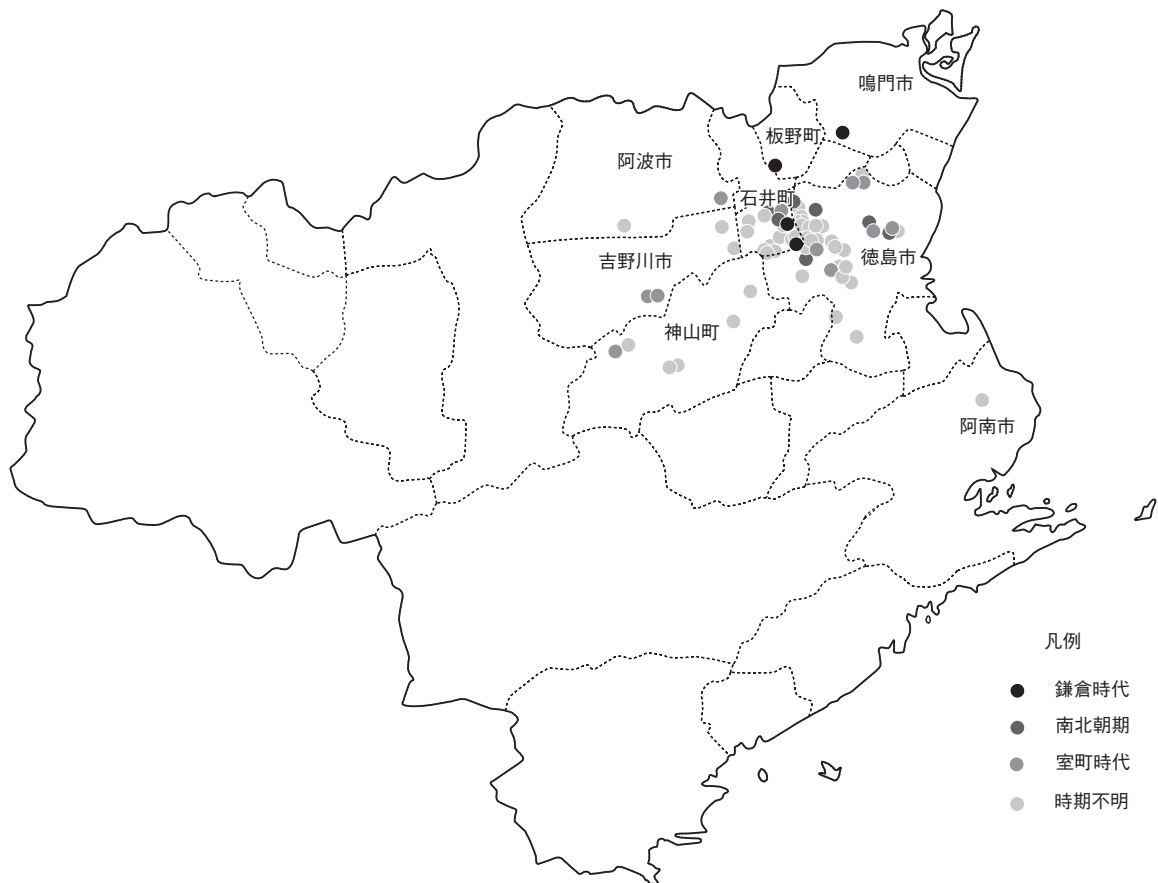
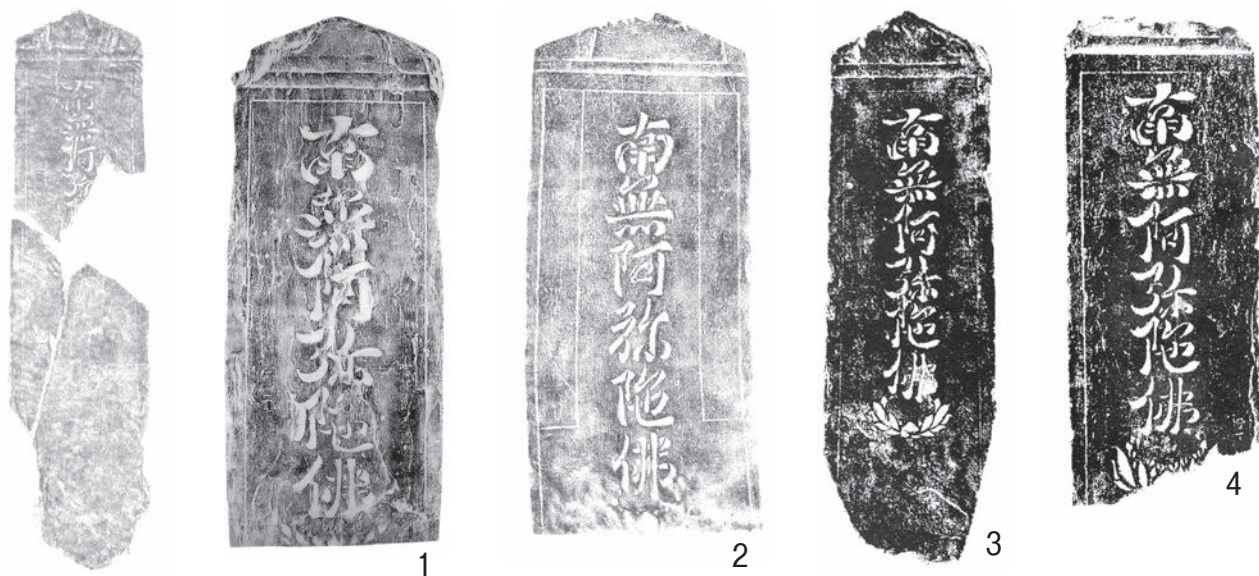


図9 名号板碑の分布

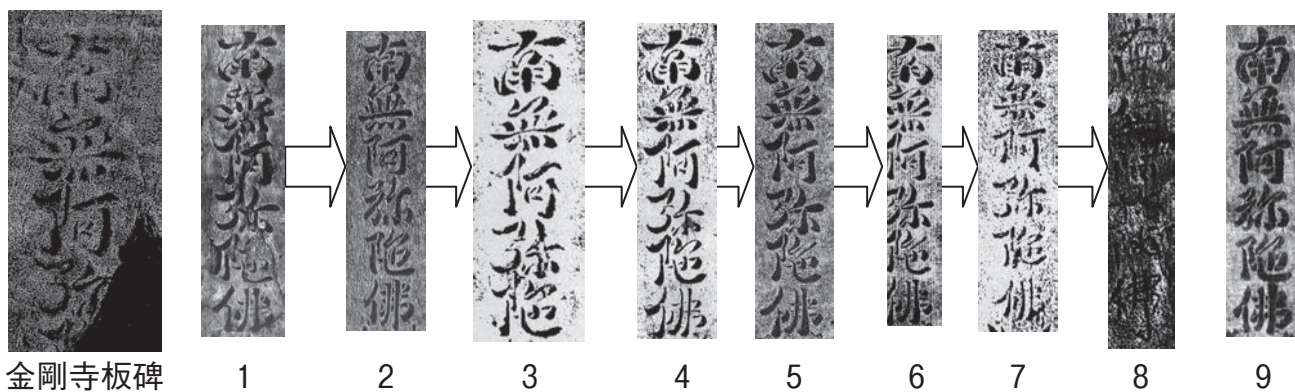
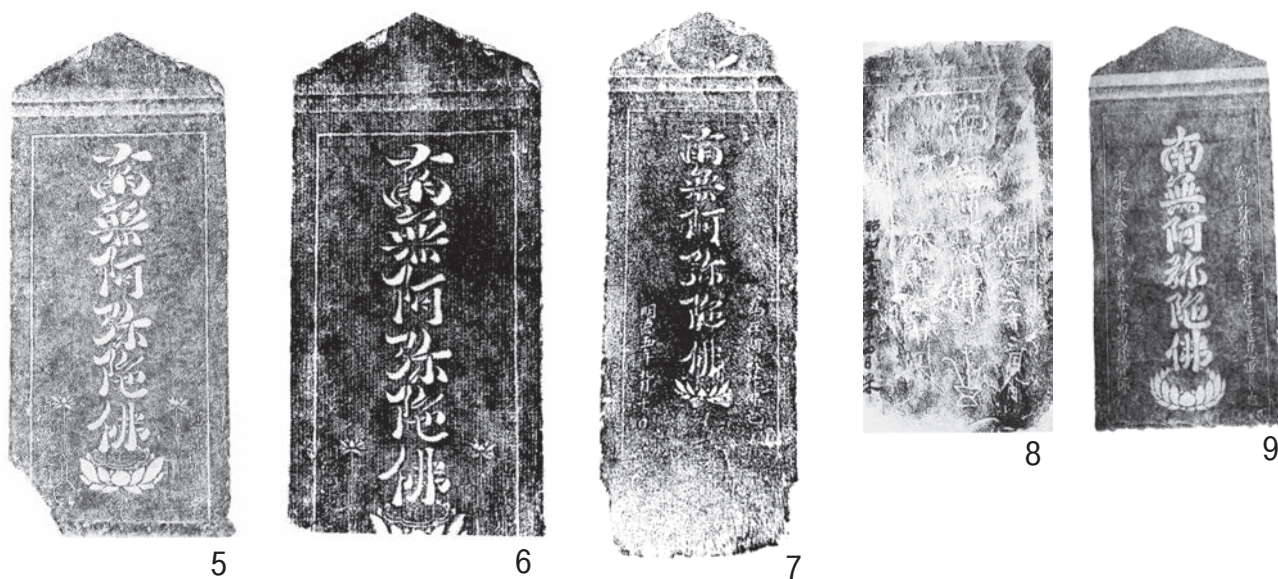
は力強いどっしりとした楷書である。これから、小松島市金剛寺跡の名号板碑は、後者の文字と共通性が高いので、南北朝合一前後の時期かと考えられる。

徳島県内で、主な名号板碑の分布を示すと、図9となる。名号板碑の分布域は、吉野川市鴨島町を西限とし、隣接する石井町、徳島市国府町・応神町に

その多くが見られる。石井町では、板碑の24.8%を名号板碑が占めている。徳島県内で最も多く板碑が造立されている神山町では、700基のうち名号板碑は7基しかない。板碑が2番目に多い旧・美郷村では、500基中2基しか名号板碑は存在しない。また、徳島県南部では、阿南市那賀川町大京原で1基あるだけであった。ここに、小松島市を加えて2基とな



金剛寺板碑



金剛寺板碑

図10 徳島県内のおもな名号板碑拓本にみる変遷

- 1 敷地板碑1285年（坂田1997） 2 辻見堂板碑1315年（考古班2017） 3 芝原西沢1337年（徳島市1989）
 4 来光寺板碑1348年（徳島市1989） 5 諏訪神社板碑1383年（徳島市1989） 6 上八万川西1393年（徳島市1989）
 7 弥勒寺板碑1394年（徳島市1989） 8 神山上分板碑1493年（神山1985） 9 高野山1344年（坂田1997）

る。

以上から、金剛寺跡の名号板碑は、紀年名はないが、貴重な県南部での名号板碑である。

2) 五輪塔線刻板碑

五輪塔線刻板碑は、板碑に五輪塔を刻んだものである。本来の五輪塔には、五大種子が刻まれている

ので、大半の五輪塔線刻板碑には五大種子が刻まれている。しかし、阿弥陀三尊種子や大日種子などを五輪塔線刻内に刻んでいる例もある。また、五輪塔線刻にはレリーフ状を呈するものがある。五輪塔線刻板碑は、徳島県内に115基ほどあると考えられる。神山町43基、美郷20基、木屋平12基、石井9基、徳

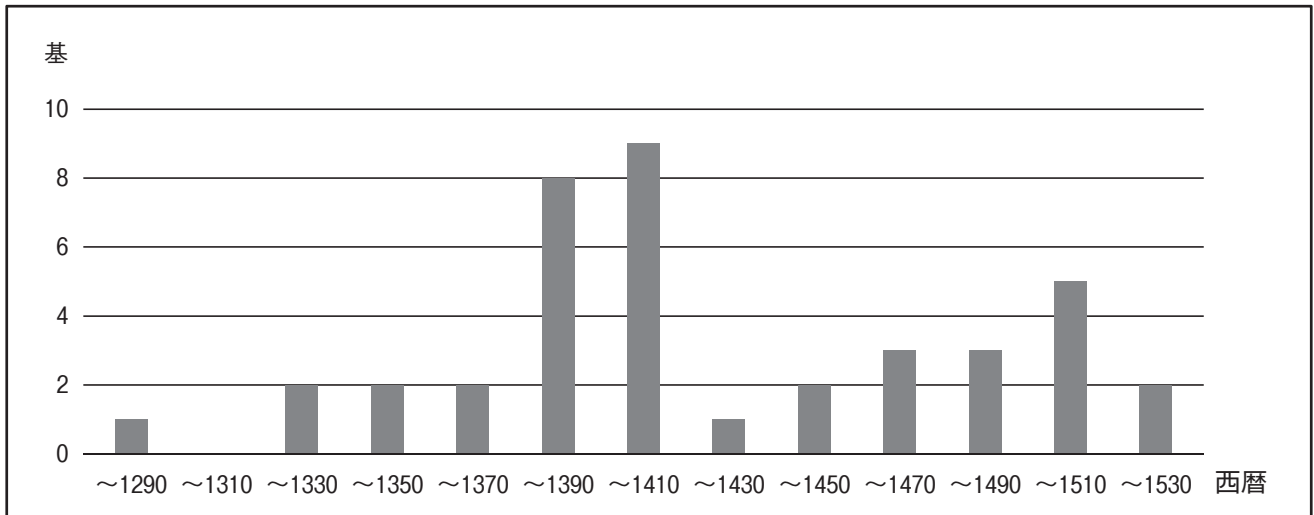


図11 五輪塔線刻板碑の造立年代



図12 五輪塔線刻板碑（紀年銘を持つもの）の分布

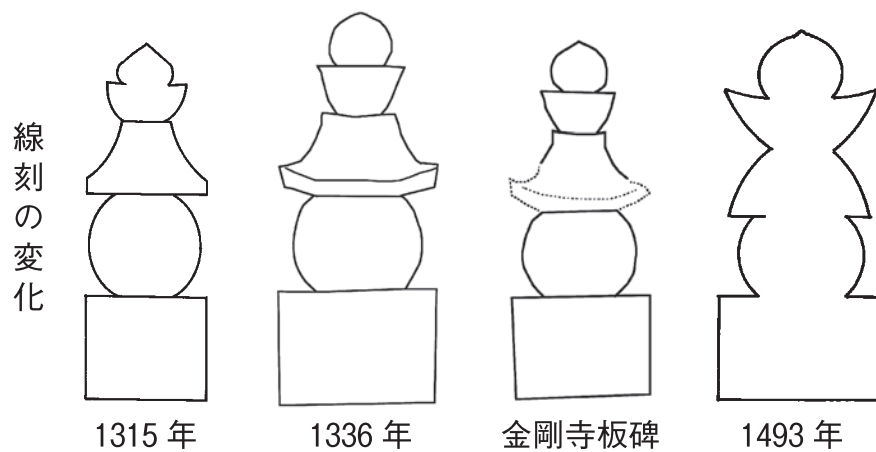
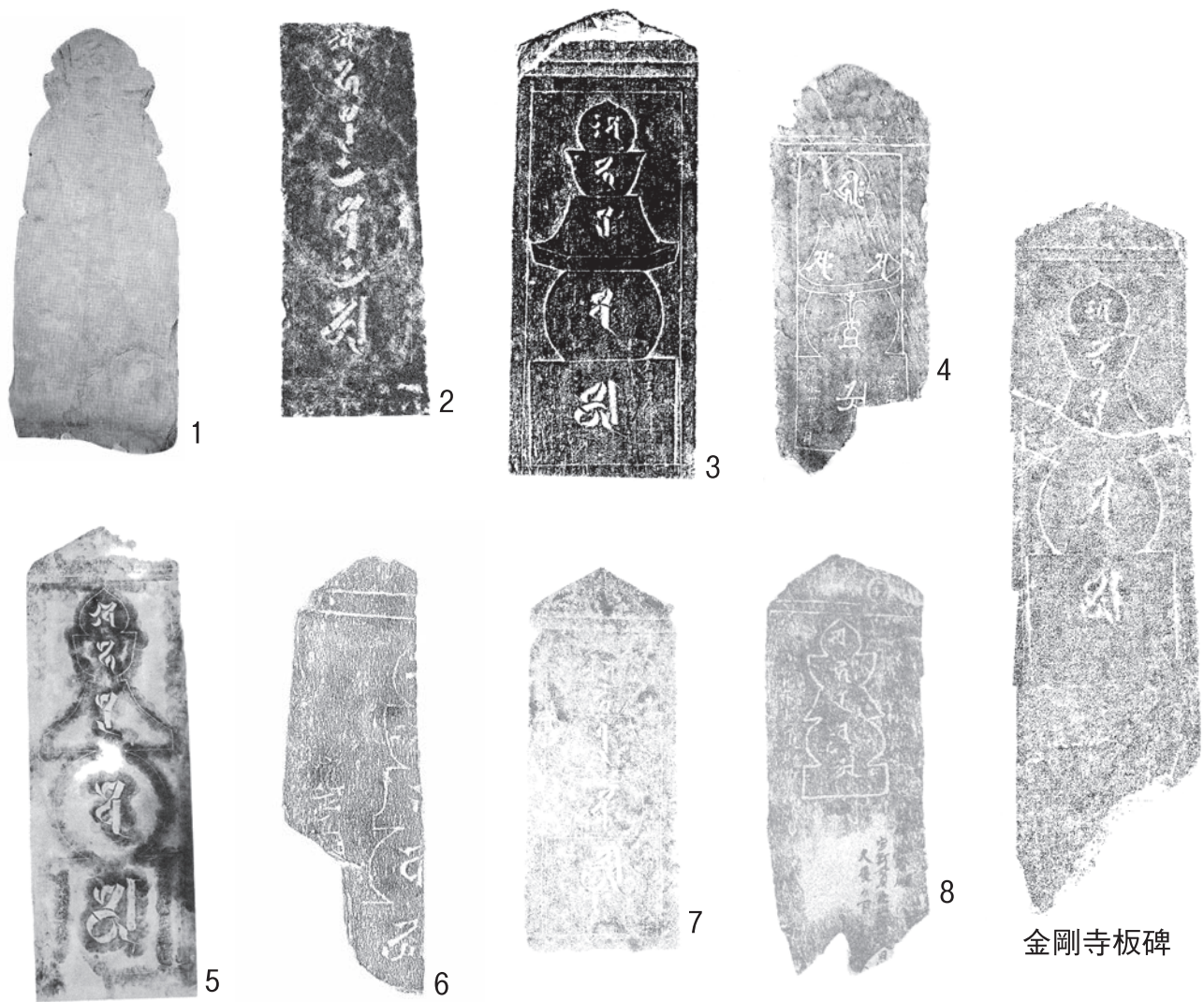


図13 おもな五輪塔線刻板碑（縮尺不同）

- 1 石井町石川神社（石井町2004） 2 神山村阿川（石川重平1985） 3 徳島市上八万町樋口（徳島市1989）
 4 木屋平麻衣（考古班2008） 5 神山村駒坂（神山1985） 6 佐那河内村仁井田神社（考古班2002）
 7 石井町平島（石井町2004） 8 神山村釘貫（神山町1995） 9 金剛寺板碑

島市が31基である。

年代が最も古いのが、石井町の石川神社の1285年である²⁾が、五輪塔形であって、五輪塔線刻ではない。図11に五輪塔線刻板碑の造立年代を示したが、これをみると、最も古いのが神山の1315年であり、1390年代に集中していることが分かる。1390～1392年に6基、1393～1396年に6基と南北朝の終わるころ前後である。次いで多いのが1350年代と1490年代である。1285年が初出であり、1525年が最終である。

今回の金剛寺板碑の五輪塔はレリーフである。レリーフの特徴的な板碑が、徳島市の上八万町樋口の上八万小裏山にある板碑である(図13—3)。「建武三年(1336)」の紀年銘を持つ長さ121.5cm。幅46.0cm・厚さ6.0cmの大きさの板碑である。高さは埋まっているので、金剛寺よりも一回り大きいと考えられる。

五輪塔線刻板碑の変遷について、『神山の板碑第三集』で、考察されている。その中から図13の1315年と1493年を参照した。あと、1336年と金剛寺については筆者が作成した。その結果、基本的に古い方が五輪塔の形を忠実に線刻しており、一番下の地輪が正方形に近いが、新しくなると高さが低くなる。一番上の空輪が大きくなり、先が尖るようになる。金剛寺板碑は、レリーフという面でも、上八万例に近いし、線形を見ても非常に近い。やや空輪が大きくなることから上八万例よりは新しいことがわかる。

以上から、五輪塔線刻板碑は分布の中心が神山・美郷・木屋平といった剣山近くにある。また、小松島に五輪塔のレリーフ板碑が残されていたことから、徳島市や神山・佐那河内の板碑との関連がうかがえる資料でもあり、今後研究を続けたい。

註

- 1) 『小松島市の文化財』 p.25
- 2) この石川神社の五輪塔板碑は、線刻ではなく五輪塔形の板碑である。

参考文献

- 石川重平1985：石川重平・河野幸夫「阿波の板碑」『阿波学会三十年史・記念論文集』徳島県立図書館
- 石川豊作1990：『石川豊作趣味の収集』小松島私立博物館
- 石井町2004：『石井町の板碑』石井町教育委員会
- 石村喜英1984「題目・名号・十三仏板碑」『板碑の総合研究総論』柏書房
- 小沢国平1967：『板碑入門』隣人社
- 越智通敏1979「阿波路の一遍—「一遍聖絵」の空白部分—」『伊予史談』231・232合併号
- 勝浦郡教育会1972：『勝浦郡志』名著出版(初版は1923年)
- 神山町1983：『神山の板碑』神山町教育委員会
- 神山町1985：『神山の板碑(第二集)』神山町教育委員会
- 神山町1995：『神山の板碑(第三集)』神山町教育委員会
- 考古班1997「日和佐町の板碑」『総合学術調査報告 日和佐町』阿波学会紀要43号
- 考古班2002：「佐那河内村の板碑」『総合学術調査報告 佐那河内村』阿波学会紀要48号
- 考古班2004：「美郷村の板碑」『総合学術調査報告 美郷村』阿波学会紀要50号
- 考古班2008：「木屋平村の板碑」『総合学術調査報告 美馬市旧木屋平村』阿波学会紀要54号
- 考古班2017：「鳴門市の板碑」『総合学術調査報告鳴門市』阿波学会紀要61号
- 小松島市史1977：小松島市史編集委員会『小松島市史風土記』小松島市
- 坂田磨耶子1997：「徳島県の名号板碑」『歴史考古学』41号
- 田所市太編1935：『立江町史』立江町
- 岡本和彦編2021：『小松島市の文化財』小松島市教育委員会生涯学習課
- 徳島県教育委員会1977：『石造文化財—徳島県文化財 基礎調査報告書第1集—』
- 徳島市1989：『徳島市の石造文化財』徳島市教育委員会
- 鳴門市1967：『鳴門市史』上巻、鳴門市教育委員会
- 服部清道1972：『板碑概説』角川書店
- 溝淵和幸1983：『日本の石仏2』国書刊行会

“Itabi” the flattened schist stone-monuments in Komatsushima City, Tokushima, Japan

OKAYAMA Machiko*, NISHIMOTO Saori, KOBAYASHI Katsumi, MIYAKE Yoshiaki and FUKUDA Osahiro

* 4-31-901, Minamisuehiro-cho, Tokushima 770-0865, JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No.64 (2023), pp.59-69.

